

宇宙戦略基金事業の経過報告

国立研究開発法人 宇宙航空研究開発機構

2026年7月13日

宇宙戦略基金

- 我が国として民間企業・大学等が複数年度にわたって大胆に研究開発に取り組めるよう、新たな基金を創設し、民間企業・大学等による先端技術開発、技術実証、商業化を強力に支援。

令和5年度補正予算3,000億円
(文科省1,500億円、経産省1,260億円、総務省240億円)
令和6年度補正予算3,000億円
(文科省1,550億円、経産省1,000億円、総務省450億円)
令和7年度補正予算2,000億円
(文科省950億円、経産省740億円、総務省310億円)

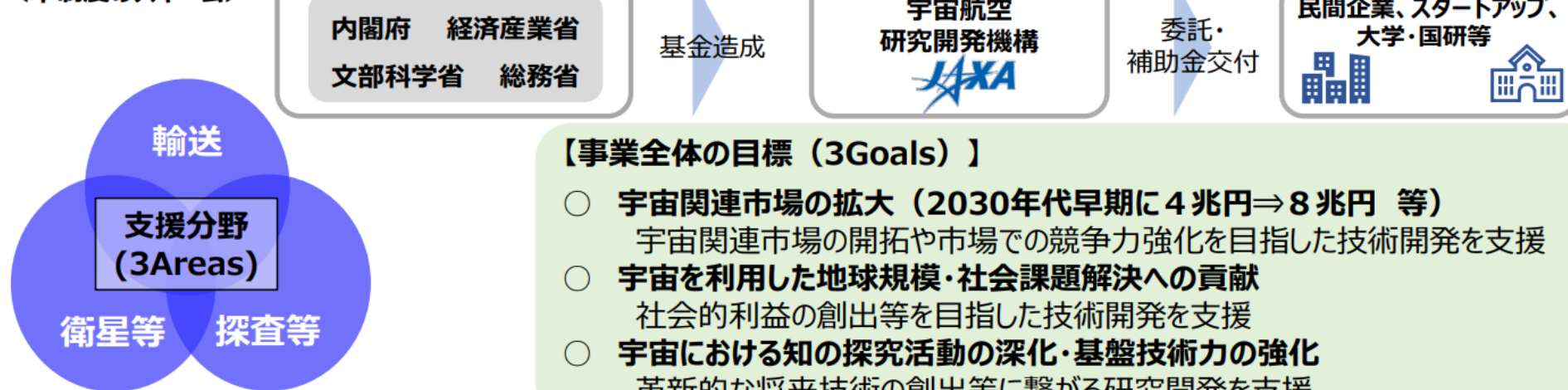
第三期

- 速やかに総額 1 兆円規模の支援を行うことを目指すとともに、民間投資や宇宙実証の加速、地域やスタートアップ等の国際競争力につながる特色ある技術の獲得・活用や産業の集積等の観点からスタートアップを含む民間企業や大学等の技術開発への支援を強化・加速する。
- 加えて、政府によるアンカーテナンシーを確保し、民間企業の事業展開の好循環を実現。

『強い経済』を実現する総合経済対策（令和7年11月21日 閣議決定）

宇宙戦略基金による速やかな総額 1 兆円規模の支援を通じて、宇宙空間における輸送、衛星及び探査の分野において先端技術開発、技術実証及び商業化を支援する。

<本制度のスキーム>



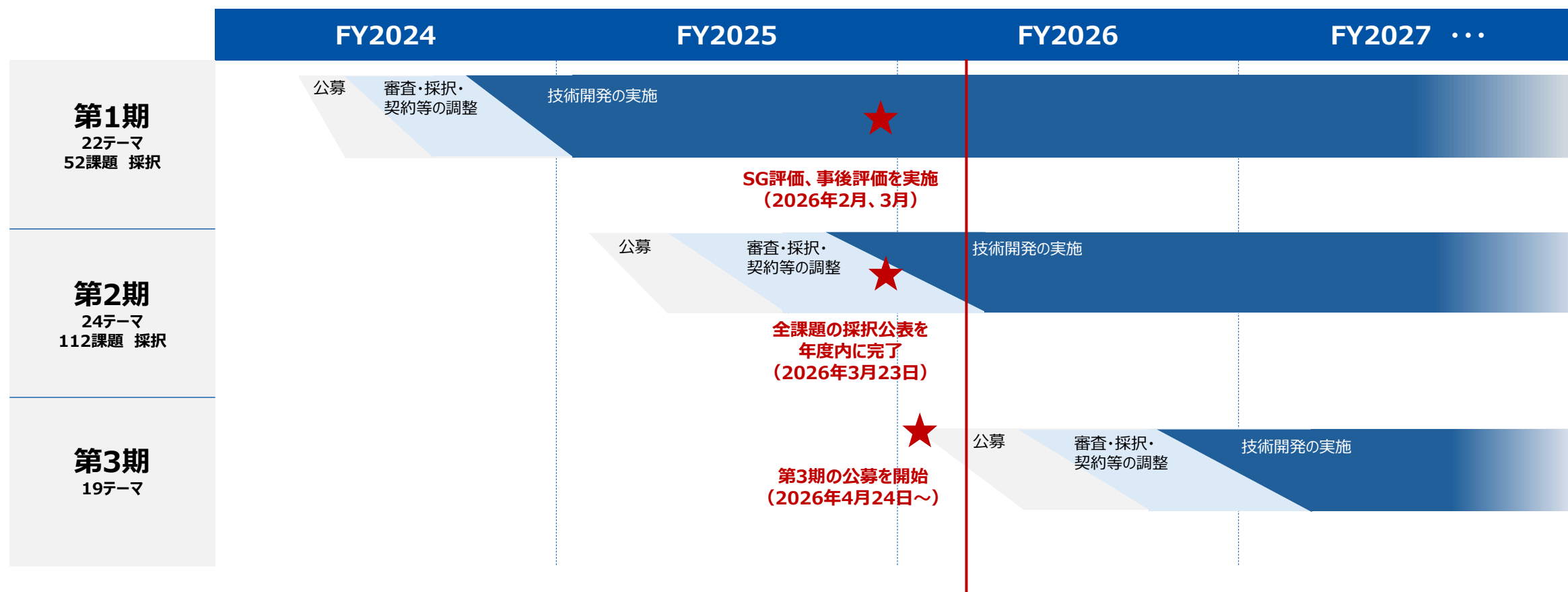
JAXAにおける宇宙戦略基金事業の運営体制

- 宇宙戦略基金基本方針を踏まえ、理事長からの委嘱による外部有識者のPD（プログラムディレクター）・PO（プログラムオフィサー）体制を構築し、審査・評価等を実施。
- 公募・採択、技術開発マネジメント等を担当する「宇宙戦略基金事業部」の発足（2024年7月）以降、事務局の増員等により運営体制の強化を順次進めているところ。



宇宙戦略基金事業全体の進捗状況（主な報告内容）

- 2024年度に第1期公募を開始して以降、全体として順調に進捗。昨年度末には第2期の採択公表をすべて完了し、本年4月より、2月に策定された実施方針の内容を踏まえて、第3期の公募を順次開始。
- 採択後、技術開発を開始した事業者に対しては、適宜にその進捗を確認しつつ、ステージゲート評価等も開始したところ。



1. 第1期事業

2. 第2期・第3期事業



ステージゲート評価の進捗状況

- 第一期の採択課題のうち、41件についてのステージゲート（SG）を順次実施予定。うち6課題のSG評価を完了し、その結果を公表した。

※2026年5月時点

年度	2025/4Q	2026/1Q	2026/2Q	2026/3Q	2026/4Q	2027/1Q	2027/2Q	2027/3Q	2027/4Q	
輸送	宇宙輸送機の革新的な軽量・高性能化及びコスト低減技術【C委託】					(株)ニコン,三菱重工業(株),清水建設(株)				総務省 文部科学省 経済産業省
						丸八(株)				
	将来輸送に向けた地上系基盤技術【C→B委託】 日本郵船(株),SPACE COTAN(株)									
衛星等	SG評価を実施した6課題					宇宙輸送システムの統合航法装置の開発【B委託】 三菱プレジジョン(株)				総務省 文部科学省 経済産業省
						固体モータ主要材料量産化のための技術開発【B委託】 (株)IHIエアロスペース				
	商業衛星コンステレーション構築加速化【A補助】 (株)Synspective, (株)QPS研究所, 日本電気(株), (株)アークエッジ・スペース					(株)Synspective, (株)QPS研究所, 日本電気(株), (株)アークエッジ・スペース				
	衛星サプライチェーン構築のための部品・コンポーネント開発・実証【A補助、B委託】 三菱電機(株)					NECスペーステクノロジー(株),三菱電機(株), シャープエネルギーソリューション(株), ナノブリッジ・セミコンダクター(株)				
	高精度衛星編隊飛行技術【C→B委託】 インターステラテクノロジー(株)					(株)ジーエス・ユアサテクノロジー コンボジットテラーズ(株) NU-Rei(株),三菱電機(株), ナノブリッジ・セミコンダクター(株)				
探査等						高出力レーザーの宇宙適用による 革新的衛星ライダー技術 【C委託】 京都大学				総務省 文部科学省 経済産業省
	国際競争力と自立・自在性を有する 月面水資源探査技術 物資補給システムに係る技術【C→B補助】 B) (株)IHIエアロスペース					再生型燃料電池システム 【C→B補助】 トヨタ自動車(株)				
	月測位システム技術 【C→B委託】 (株)アークエッジ・スペース					低軌道汎用実験 システム技術 【C→B委託】 Space BD(株)				
						国際競争力と自立・自在性を有する 物資補給システムに係る技術【C→B補助】 A) (株)日本低軌道社中				
						低軌道自律飛行型モジュール システム技術【C→B補助】 (株)日本低軌道社中				

※1：SG評価対象外の課題についても、適宜中間評価を行うなど、技術開発の進捗状況等を把握し、状況変化等に応じて、適時適切に中止・見直し・加速等を判断することもありうる。

※2：FSや調査研究等、実施期間が短くSG評価・中間評価の対象外の課題については、POによる課題管理を通じて技術開発マネジメントを実施。

ステージゲート評価の進捗状況

- 下記6課題については、採択時に付された特別な要処置事項への対応状況の確認や、技術開発期間の初年度における進捗確認を主目的としたステージゲート評価（加速、継続、見直し、中止を判断）を実施。
- 事業開始から1年程度となる評価実施時点において、いずれもの課題も継続が妥当との評価結果となった。

技術開発テーマ名	技術開発課題名	実施機関名	SG評価結果 (評価の実施時期)
高精度衛星編隊飛行技術 (文部科学省措置分)	超多数機の精密制御が可能な編隊飛行技術の構築	インターステラテクノロジズ株式会社	継続 (2026年2月)
衛星サプライチェーン構築のための部品・コンポーネント開発・実証 (経済産業省措置分)	国産太陽電池セル・カバーガラスおよび搭載アレイの開発	三菱電機株式会社	継続 (2026年2月)
商業衛星コンステレーション構築加速化 (経済産業省措置分)	光通信衛星コンステレーション構築及びシステム実証に係る技術開発	日本電気株式会社	継続 (2026年3月)
	多目的衛星コンステレーション群の構築（多様な波長・周波数情報を拡張するセンサを搭載した衛星コンステレーションの構築）	株式会社アークエッジ・スペース	継続 (2026年3月)
	小型SAR衛星の量産・打上げと段階的性能向上	株式会社Synspective	継続 (2026年3月)
	小型SAR 衛星の量産加速化及び競争優位性確立に向けた機能強化	株式会社QPS研究所	継続 (2026年3月)

①衛星量子暗号通信技術の開発・実証

距離に依らない堅牢なセキュリティ環境を実現する量子暗号通信網の構築に向けた衛星搭載用の通信機器及び地上局設備の開発・実証

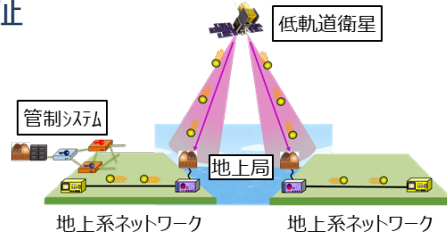
支援規模：145億円

採択事業者：NICT

最長支援期間：5年程度

進捗状況：事業実施中

SG評価時期（予定）：FY2028・3Q



③月面の水資源探査技術（センシング技術）の開発・実証

センシングによる効率的な月面水資源探査に向けた、小型軽量なセンサを搭載した小型衛星の開発・実証

支援規模：64億円

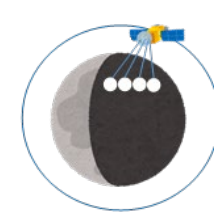
採択事業者：東京科学大学

最長支援期間：4年程度

進捗状況：事業実施中

SG評価時期（予定）：

①FY2026・3Q ②FY2027・4Q



②衛星コンステレーション構築に必要な通信技術（光ルータ）の実装支援

大容量リアルタイム通信が可能な衛星間光通信におけるキー技術として、相互運用性、高速性、安定性等を備えたネットワークに必要な光ルータ等の技術開発

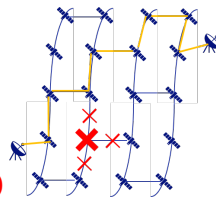
支援規模：19億円

採択事業者：NEC

最長支援期間：3年程度

進捗状況：事業実施中

中間評価時期（予定）：FY2026・3Q



④月-地球間通信システム開発・実証（FS※）

※フィージビリティスタディ

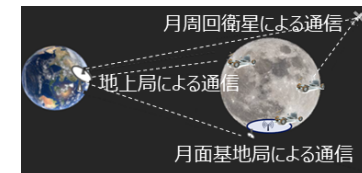
月-地球間における大容量かつ高精度捕捉等が可能な通信アンテナの開発に向けた基本設計、高品質・高信頼性のモバイル通信環境の実現可能性の調査

支援規模：5億円

採択事業者：①KDDI、②福井工業大学

最長支援期間：1年程度

進捗状況：事業完了



事業が終了した技術開発課題に対する事後評価結果

第1期技術開発テーマ「月-地球間通信システム開発・実証(FS)」(総務省計上分)で実施した2課題については、約1年間の事業期間を終了。基本方針等に基づき、事後評価を実施(2026年3月)。

第1期技術開発テーマ「月-地球間通信システム開発・実証(FS)」(総務省計上分) 公募概要(2024年7月 公募開始)

<技術開発実施内容>

「**月や火星圏以遠への探査や人類の活動範囲の拡大に向けた我が国の国際プレゼンスを確保**」等の寄与に向けて月-地球間通信の実現可能性評価を行うため、以下を、1年間程度を目標として調査検討する。

- (1) **月-地球間における大容量かつ高精度捕捉・追尾等が可能な通信アンテナ**の開発に向けた**地球地上局の基本設計の確立**
- (2) 移動しながらも高画質映像伝送が求められる有人/無人探査機等のミッションに対して**高品質・高信頼性のモバイル通信環境を月面において提供することの実現可能性等の評価**

<支援の方法>

支援期間：(1) **最長1年間**以内程度 (2) **最長1年間**程度
支援規模：(1) (2) 合わせて **5億円程度を上限**とし、**1件程度**を採択
支援形態：**委託**



採択機関及び技術開発課題(2024年11月 採択結果公表)

- KDDI株式会社 「月-地球間及び月面での大容量通信実現に向けた実現可能性検討」※1
- 福井工業大学 「福井工業大学13.5m地上局を利用した月-地球間通信システム設計の提案」※2

※1 (1) 月面探査向け地上局の整備及び(2) 月面モバイル通信環境の構築の2項目を実施 ※2 (1) 月面探査向け地上局の整備の1項目を実施

事業が終了した技術開発課題に対する事後評価結果

第1期技術開発テーマ「月-地球間通信システム開発・実証(FS)」(総務省計上分)で実施した2課題については、約1年間の事業期間を終了。基本方針等に基づき、事後評価を実施(2026年3月)。

KDDI株式会社(月-地球間及び月面での大容量通信実現に向けた実現可能性検討)

評価結果：技術開発計画は想定通りに進捗し、優れた成果が得られている

多数機関・組織が参画した検討において、代表機関がマネジメントをしっかりと行い、短期間に月-地球間通信の地球地上局の基本設計の確立、月面のモバイル通信の実現可能性の評価を行い、月探査計画での日本の貢献とプレゼンス確保が可能であることを示したことが高く評価された。

(本FSによる主な成果)

- 月探査で要求される周波数帯、送受信性能、ネットワーク運用に対応可能な地上局開発の実現可能性を示し、開発仕様書の案を作成(海外の事業者による日本での地上局利用のニーズがあることも明らかになった。)
- 月面上で高品質・高信頼性なモバイル通信環境を構築するための技術課題と開発計画案を提示 等

福井工業大学(福井工業大学13.5m地上局を利用した月-地球間通信システム設計の提案)

評価結果：技術開発計画は凡そ想定通りに進捗し、当初目標を概ね達成している。

大学・研究者の発想を取り入れた検討により、限界を識別しつつ13.5m級のアンテナを始めとする学術用のアンテナによる月探査支援の可能性の広がりを示した点が評価された。

(本FSによる主な成果)

- 福井工大が保有するFUT13.5mが、X帯を中心とするTT&C運用について多くのミッションに対応可能であることを示した。(広帯域データ伝送ではマージン不足となる場合があり、30m級以上のアンテナやデータレートの見直し等の対策が必要なことも明らかとなった。)
- アンテナ、受信系、ソフトウェア無線等の技術検討を通じ、地上局の運用だけでは得られない経験を積むことで、専門人材の育成にも貢献。

1. 第1期事業

2. 第2期・第3期事業



第1期、第2期における採択状況の全体傾向

- 第一期・第二期ともに全国各地から多様なプレイヤーからの応募及び参画があった。
- 第二期では、採択予定数が多い技術開発テーマの設定がなされたこと等から、第一期に比し、応募件数は約 3 倍、採択件数は約 2 倍。

第一期

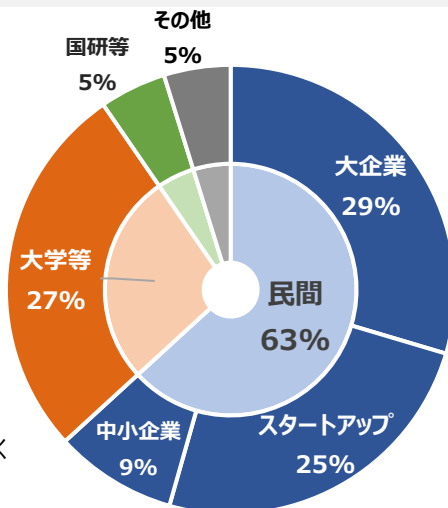
22テーマに対して

130件・247機関の応募から、

52件採択※

(全120機関が参画)

※2026年3月に追加公募で採択した3機関を除く



第1期実施機関の属性割合

28都道府県から採択
(約60%)



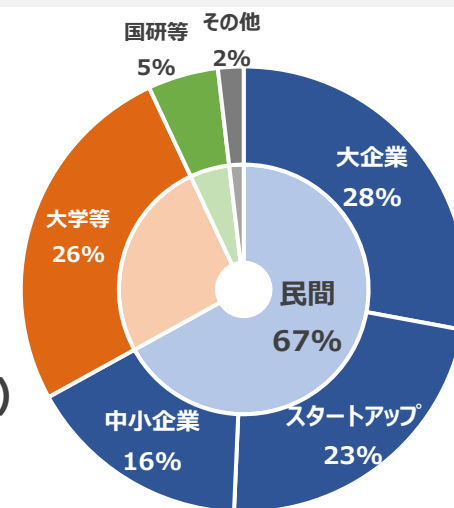
第二期

24テーマに対して

336件・599機関からの応募から、

112件採択

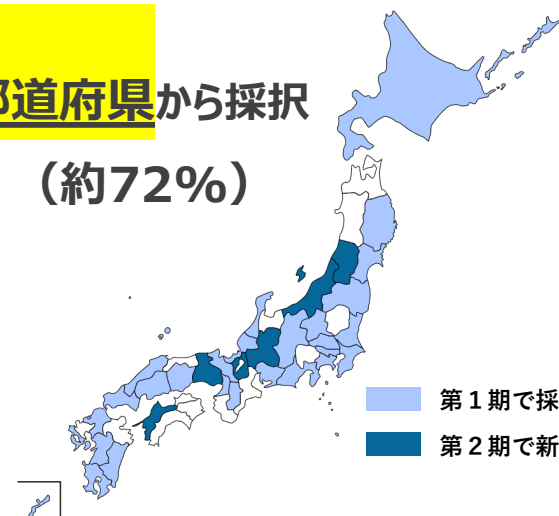
(全215機関が参画)



第2期実施機関の属性割合

第1期・第2期合計で

34都道府県から採択
(約72%)



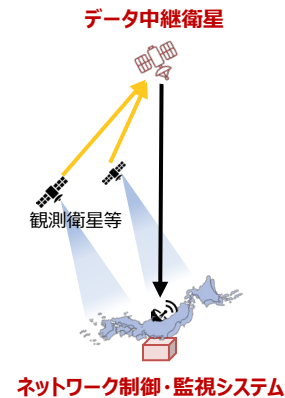
■ 第1期で採択された都道府県
■ 第2期で新たに採択された都道府県

第2期技術開発テーマ（総務省計上分、R6補正予算：450億円分）の進捗状況

① 衛星光通信を活用したデータ中継サービスの実現に向けた研究開発・実証

支援規模：235億円
採択事業者：Space Compass
最長支援期間：5年程度※
進捗状況：事業実施中

我が国の事業者による光通信を利用した軌道間のデータ中継サービスの商用提供の開始に向けた、静止軌道と低軌道等との間における衛星光通信技術（データ中継）の確立、ネットワークの制御及び監視が可能なシステムの開発並びにこれらを一体とした実証を行う。



③ 衛星光通信の実装を見据えた衛星バス及び光通信端末の開発及び製造に関するフィージビリティスタディ

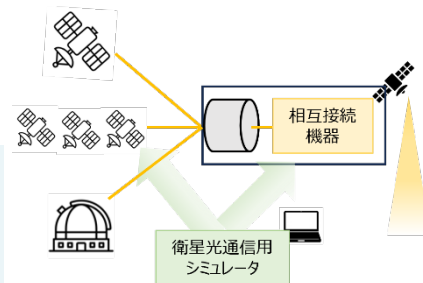
支援規模：4億円
採択事業者：①三菱電機、②NEC、③NICT
最長支援期間：2年程度
進捗状況：事業実施中

2030年代以降を見据え、衛星光通信において使用する衛星バス及び光通信端末の国際競争力確保のために必要となる技術的要件・国際競争力確保の要件を調査・検討し、産業基盤を構築する方策を検討する。

② 衛星光通信の導入・活用拡大に向けた端末間相互接続技術等の開発

支援規模：30億円
採択事業者：ワープスペース
最長支援期間：5年程度
進捗状況：事業実施中

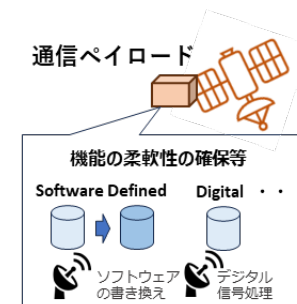
衛星光通信の導入・活用拡大に向けた(A)衛星光通信端末の相互接続の確保に関する技術及び(B)光通信を行う衛星間の捕捉・追尾や衛星姿勢等の計算を支援するソフトウェア等の開発等を行う。



④ 国際競争力ある通信ペイロードに関する技術の開発・実証

支援規模：58億円
採択事業者：三菱電機
最長支援期間：5年程度
進捗状況：事業実施中

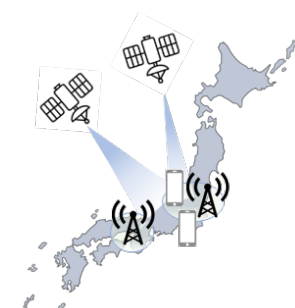
国際競争力の観点で優位性を有する通信ペイロードの基盤技術の獲得・製造能力の自律性の確保を目指し、衛星機能の柔軟性の確保等の需要に対応する国際競争力ある通信ペイロードに関する技術の開発・実証を行う。



⑤ 衛星通信と地上ネットワークの統合運用の実現に向けた周波数共用技術等の開発・実証

支援規模：110億円
採択事業者：楽天モバイル
最長支援期間：5年程度※
進捗状況：事業計画調整中

我が国の事業者がコントロール可能な衛星通信と地上ネットワークの統合運用の実現に向けた、周波数共用技術の開発及び実証を行う。



※ ステージゲート評価等を踏まえ、支援総額の範囲内でさらに必要な期間（1年程度）を追加することが可能。

第3期（令和7年度補正予算分）の公募開始及び予定

- これまでの運営実績を踏まえ、第3期は4月24日より3テーマの公募を開始。（第1期は7月上旬、第2期は5月中旬から公募開始）
- より質の高い提案を受け付けるべく、第2期と同様、全19テーマの公募予定時期を3月13日に公表。段階的に公募を開始し、それぞれで提案を受領後、審査会による審査を経て採択決定・公表を進め、**今年度中に全テーマの審査・採択完了することを目標**に運営していく。

公募開始時期	第3期技術開発テーマ名（全19テーマ）
4月下旬 （4月24日に公募開始）	【総】衛星通信利活用を拡大するための汎用地上アンテナ及びユースケースの開発・実証 審査中 【文】衛星応用に向けた光・量子センシング技術 公募中 【経】宇宙実証機会の拡大に資する衛星を活用した軌道上実証の低コスト・高頻度化技術の開発実証 審査中
5月中旬 （5月15日に公募開始）	【経】民間ロケット打上げ実証加速化（STAND） 公募中 【文】LEO拠点リブースト技術 審査中
6月中旬 （6月12日に公募開始）	【文】打上げシステムへの洋上活用技術 公募中 【文】月・小惑星等の宇宙資源活用に向けた技術 公募中 【経】宇宙交通管理を見据えた自律性確保に資する事業化加速 公募中
6月下旬 （6月26日に公募開始）	【総】次世代衛星通信を実現する革新的衛星搭載アンテナの開発・実証 公募中 【総】月・地球間通信インフラの実現に必要な地球局の開発・実証 公募中 【文】LEO利用促進技術 公募中
7月上旬 （7月10日に公募開始）	【文】宇宙輸送機の大気圏再突入における熱防護技術 公募中 【経】デジタル技術を前提とした衛星開発・製造プロセスの刷新及び機能高度化の技術開発・実証 公募中
7月下旬	【総】衛星を取り巻くセキュリティ技術（電波の妨害・傍受対処技術）の開発・実証 【文】SX技術シーズ統合・人材育成拠点（SX-CRANE）
8月上旬	【経】ロケット飛行運用の効率化・高機能化 【文】物理AI等による宇宙システムの革新技術 【総】Q/V帯等通信機器の開発・実証
8月下旬	【文】SX基盤領域発展研究（SX-ARK）

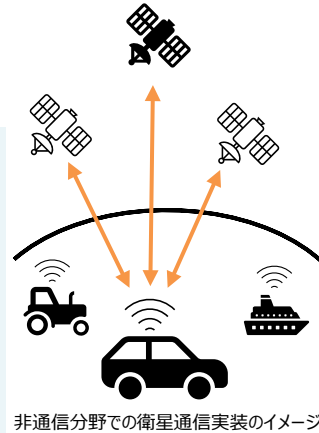
第3期技術開発テーマ（総務省計上分、R7補正予算：310億円分）の進捗状況

①衛星通信利活用を拡大するための汎用地上アンテナ及びユースケースの開発・実証 **審査中**

支援総額 : 70億円
採択予定件数 : 2～3件程度
最長支援期間 : 5年程度

【概要】

国民生活に身近な分野で衛星通信を社会実装するためには、アンテナの利便性向上が不可欠である。複数サービスに対応可能なアンテナの開発や車体との一体化技術の確立により、自動運転等に衛星通信の活用シーンを広げ、宇宙関連市場の拡大を促進する。



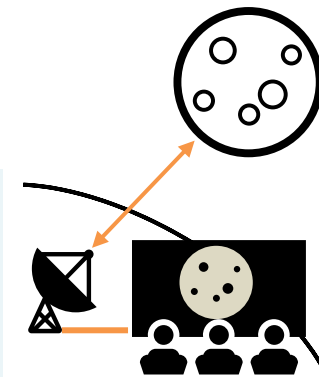
非通信分野での衛星通信実装のイメージ

②月・地球間通信インフラの実現に必要な地球局の開発・実証 **公募中**

支援総額 : 50億円
採択予定件数 : 1件
最長支援期間 : 4年程度

【概要】

月面探査や輸送が世界的に活発化し、月関連市場の拡大が期待される中、月通信への関心が高まっている。他方、月・地球間の通信インフラは量・質ともに不足しており、大容量通信に対応した地上局を開発することで、月面活動の円滑化・自律性の確保と市場獲得を図る。



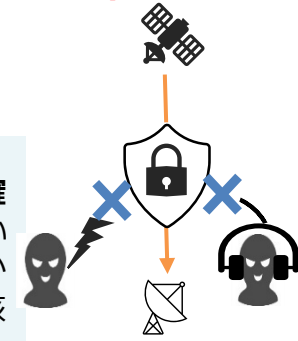
月からのリアルタイム映像伝送のイメージ

③衛星を取り巻くセキュリティ技術（電波の妨害・傍受対処技術）の開発・実証 **公募開始予定時期：7月下旬**

支援総額 : 25億円
採択予定件数 : 1～2件程度
最長支援期間 : 3年程度

【概要】

衛星通信の妨害・傍受といった脅威への対応策は十分に確立されておらず、衛星セキュリティ市場は拡大が見込まれている。我が国が地上通信分野で培ってきた技術的優位性を活かすことで、これらの脅威に対処可能な通信機器を開発し、当該市場の旺盛なニーズの獲得を図る。



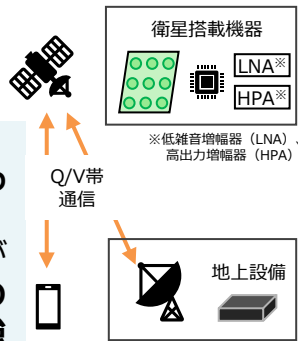
妨害・傍受回避のイメージ

④Q/V帯等通信機器の開発・実証 **公募開始予定時期：8月上旬**

支援総額 : 93億円
採択予定件数 : 1～2件程度
最長支援期間 : 5年程度

【概要】

近年、衛星打上げの増加に伴い既存の周波数資源が逼迫する中、多くの通信需要に対応可能な電波（Q/V帯等）の活用が期待され、国内外で開発競争が激化している。我が国の研究開発の蓄積を活かし、世界に先駆けてQ/V帯等の先端通信機器を開発することで、本分野の国際競争力を強化する。



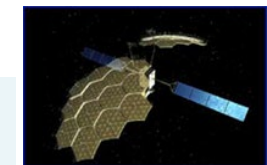
技術開発内容のイメージ

⑤次世代衛星通信を実現する革新的衛星搭載アンテナの開発・実証 **公募中**

支援総額 : 63億円
採択予定件数 : 1～2件程度
最長支援期間 : 5年程度

【概要】

世界の衛星通信市場は著しい成長が見込まれており、衛星と地上間の通信を支える衛星搭載アンテナの高機能化に対するニーズが国内外で高まっている。我が国が有する特色ある技術を活用し、こうしたニーズに応える革新的な衛星搭載用アンテナを開発し、国際競争力ある宇宙関連産業を創出する。



技術試験衛星Ⅷ型搭載アンテナ（当時世界最大級）
（出典）JAXAウェブサイト

參考資料

成果最大化に向けた支援①

～認知拡大・新たなプレイヤーの掘り起し等のための広報活動～

- 実施機関が取り組む技術開発の認知度向上や、新たな事業機会につなげるための機会を提供

SPEXA（5/27-29@東京ビッグサイト）とのコラボ

- ・ 特設ページで出展する実施機関や基金とのコラボ内容を紹介中。
- ・ JAXAと実施機関のパネルディスカッション及び実施機関のピッチを企画。
- ・ 来場者向けのスタンプラリーを企画。実施機関の出展ブースをまわるとオリジナルステッカー（3ブース）やタンブラー（7ブース）をプレゼント。



PR TIMES

- ・ PR TIMES社とJAXA宇宙戦略基金事業部との協力覚書を締結。
- ・ 実施機関によるプレスリリースの無償配信プログラムを提供。
- ・ 実施機関の広報担当者向けセミナー 兼 交流会を企画。

成果広報のためのHPリニューアル

- ・ 公募中心のサイトから、実施機関の成果を伝えやすい構成に改修中。

講演機会依頼対応

- ・ 地球観測データ利用ビジネスコミュニティ<BizEarth>（4/24・東京都）
- ・ 中部経済産業局（5/14・愛知県）
- ・ 新産業創造研究機構<NIRO>（6/5・兵庫県）
- ・ SpaceMedia（6/10・東京都）
- ・ Interop Tokyo（6/11・千葉県）
- ・ 海洋研究開発機構<JAMSTEC>（7/10・神奈川県）

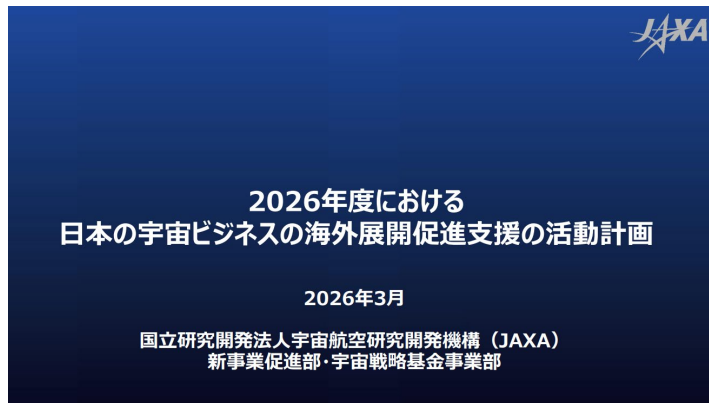
成果最大化に向けた支援②

～実施機関の海外展開の促進等のための国際的活動～

- 採択事業者による海外への事業展開を促進するための取組を実施中。

海外展開支援方針2026の公表

- 日本企業への海外展開支援に係るアンケート結果等を定量的に分析し、重点エリア・イベントや方針を2026年度の活動計画として策定・公開。



2026年度の活動計画（現時点版）

- アンケート結果等を踏まえ、現時点での活動計画は以下の通り。
 - 今後、前ページの6社の委託事業者やJAXAが各種イベントを新たに企画次第、次ページにおいて情報発信を行う。
- 4月13-16日 Space Symposium 2026@米コロラドスプリングス - 展示会出展支援 ※締め切り済み
 - 5月中目途 海外における衛星データ利用システム等の開発・実証、社会実装基盤整備事業者等（6社）の支援内容の説明会
 - 5月27-29日 SPEXA@東京ビッグサイト - 宇宙戦略基金事業とのコラボイベントの実施
 - 7月6-9日 SPACETIDE@東京虎ノ門 - 宇宙戦略基金事業の実施機関と海外企業とのBtoBマッチング支援
 - 8月23-26日 Small Satellite Conference@米ソルトレイク - 企業情報の発信、展示会出展支援【TBD】
 - 9月7-9日 Bengaluru Space Expo 2026@インド - JETROと検討中
 - 10月5-9日 IAC@トルコ アンタルヤ - 展示会出展支援 ※5月募集開始
 - 11月17-19日 Space Tech Expo Europe@独ブレーメン - 企業情報の発信、展示会出展支援【TBD】
 - 10月27-30日 APRSAF@タイ - BtoBマッチング支援
 - 12～1月頃：年1回の企業向けアンケートの実施

Space Symposiumにおける出展支援及び日米レセプション

- 宇宙産業展示会として高い人気のSpace Symposiumで基金採択事業者を含めた日本企業のブース出展支援を実施。今回は日米でのネットワーキング・レセプションも開催。



貿易管理制度等説明会

- 海外展開支援アンケートにおける企業からのご要望等を踏まえ、経済産業省 貿易管理部・宇宙産業課と共催で、安全保障貿易管理制度および技術流出対策に関する説明会を開催。

3月18日宇宙ビジネス向け 安全保障貿易管理制度説明会および質疑応答（経済産業省・JAXA 共催）

https://aerospacebiz.jaxa.jp/Spacebiz_global/export-control.html

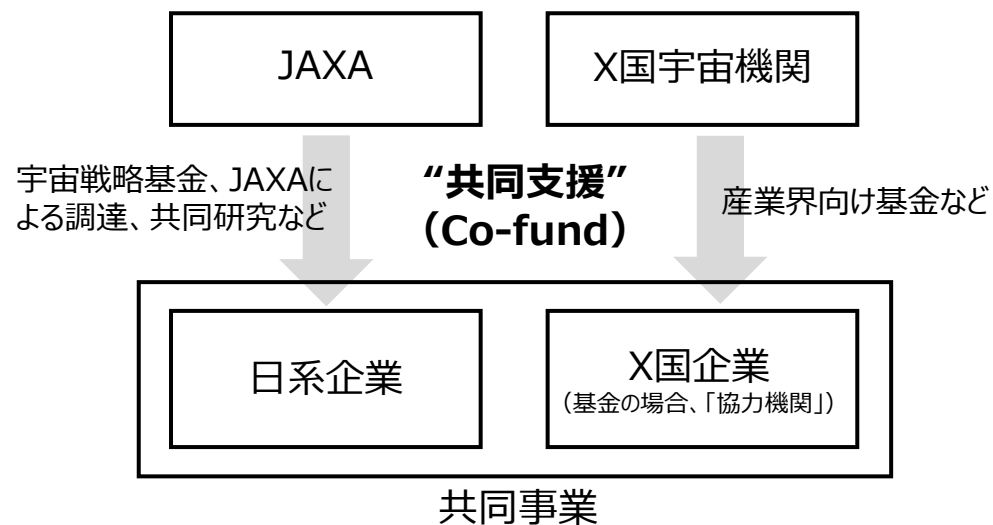
成果最大化に向けた支援③

～実施機関の海外展開の促進等のための国際的活動～

- 海外宇宙機関とのCo-fundを促進するため、JAXAとして「Co-funded事業推進枠組み（CBPF）」という文書を公開し、**英国のほか仏国とも本枠組みに基づく協力を合意済み**。現在、複数のアジア諸国とも調整中。
- 具体的なCo-fund案件の創出に向けては、**宇宙戦略基金で採択された事業者と、海外企業とのB2Bマッチングイベントを企画**中（マッチングシステムを活用した個別ブースによる商談会；7月上旬のSPACETIDE期間のサイドイベントとして）。
- 候補事業については[情報提供フォーム](#)から多くの情報提供が行われているところ。

■ 「Co-funded事業」のイメージ

■ 合意国



[Co-fundに関する各種情報はこちら](#)

英国宇宙庁(UKSA)
2025年10月24日合意



2025/10/27日英B2Bイベント



フランス国立宇宙研究センター（CNES）
2026年4月2日合意



2026/3/31 日仏企業ネットワーキング
(ピッチセッション)

